

## 欧州特許庁、品質報告書2018を公表

2019年7月11日  
JETRO ティェツェルトゥル事務所

欧州特許庁（EPO）は、2019年7月9日、品質報告書2018（Quality Report 2018）をニュースリリースにて公表した。同庁の品質報告書は2016年から毎年公表されているものであり、今回が3回目となる。

EPO は、2018年版の報告書では、特許付与プロセスについてより深く掘り下げ、EPO での手続の各段階で実施されているチェック及び予防措置（safeguards）について説明するとともに、EPO の部門（sectors）レベルでの広範なデータ分析、EPO によってとられた品質改善措置、ユーザーによって提供されたフィードバック、及び将来のために計画されている取組を示している、としている。

また、EPO は、業務の品質に関する透明性及び説明責任の向上のために2018年中にユーザーとの関わりを強化しており、新しい戦略計画の下で示されたこのアプローチは今後数年間継続され、EPO 及び利害関係者が品質の定義について合意し品質に関する認識を一致させるのを促すことを目的とするものである、としている。

また、本報告書は以下の分析を含む、としている。

- ユーザー満足度調査：  
2018年の結果は、ユーザー満足度の更なる向上を示した。回答者の84%（1%増）がサーチに、77%（1%増）が審査に、そして、74%（5%増）が異議に、満足又は非常に満足していた。方式審査の分野では、非常に高いレベルからの減少（89%から87%）ではあるものの、わずかな減少が報告された。
- コンピュータ実施発明（Computer Implemented Inventions（CII））：  
CII は引き続きユーザーにとって重要な関心事項である。そのような出願の一貫した取扱いを保証するために、ガイドラインのCIIの内容の全面改訂が完了し、CIIの専門家の内部ネットワークが確立された。
- 適時性（timeliness）の向上：  
EPO は、2018年に利害関係者へのサービスを改善した。そして、EPO が今後数年間でタイムリーな高品質かつ効率的な処理を着実に進めるにつれて、様々な出願人のための最適な手続の期間がますます重要な論点になる。
- 2018年の成果物の監査：  
成果物の品質監査の結果は改善の余地を示した。4つの通常の監査のうちの3つについては、品質監査の結果は非常に高いレベル（サーチ94.6%、異議99%、分類96%）

で維持されたが、特許付与の監査においてコンプライアンス率の低下（84.7%から76.6%）がみられた。これらの結果は、慎重に分析され、多くの措置がとられている。

- － EPO のニュースリリース及び品質報告書 2018 は、以下参照 ー  
（ニュースリリース）

[Transparency on quality of products and services: EPO publishes Quality Report 2018](#)

（品質報告書 2018）

[Quality Report 2018 \(PDF\)](#)

- － EPO の品質報告書に関する欧州知的財産ニュースは、以下参照 ー  
[欧州特許庁、初となる品質報告書を公表（2017年7月6日）\(PDF\)](#)

（以上）